

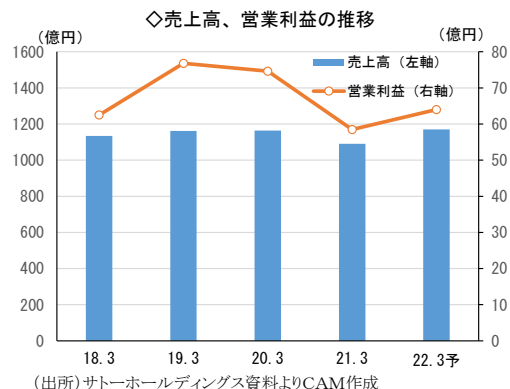
# 企業ニュース サトーホールディングス

(東証1部: 6287) <https://www.sato.co.jp/>

作成者: 奥村義弘

## 自動認識システムの総合メーカー

1951年設立。ハンドラベラーの大手として知られる。現在では、バーコードやRFID（RFタグと無線通信を利用した自動認識技術）、画像認識などに代表される、自動で情報を認識、入出力するための「自動認識技術」をベースに、それらを駆使して動くモノや人に情報を紐付け（タギング）、トレーサビリティ、サプライチェーンマネジメント、資産管理など、さまざまな自動認識ソリューションを提供する。21.3期の売上高構成比は、自動認識ソリューション（日本）63%、同（海外）37%、IDP（特殊な感熱顔料を含む塗料を素材に塗布し、商品へのダイレクト印刷を可能にする技術）0%。2021～2023年度の中期経営計画では、最終年度に売上高1,300億円、営業利益118億円を目指す。



## 22.3期は海外事業を中心に拡大

22.3期・第1四半期（4-6月）の連結業績は、売上高が302億円、前年同期比28%増、営業利益が17億円、同4.4倍。自動認識ソリューションが、国内外ともに好調で、会社想定を上回った模様。国内は売上高が172億円、同10%、営業利益が6億円、同47%増。前年同期のコロナ影響からの反動増で小売りや物流業界向けが好調。海外は売上高が129億円、同65%増、営業利益が12億円、同15倍。米州で卸売業者によるプリンターの在庫積み増しがあったほか、中国や欧米での製造業や食品・飲料向けが順調に回復。なおIDP事業は20年9月に同事業の全株を譲渡した。

22.3期の通期会社計画は、売上高が1,170億円、前期比7%増、営業利益が64億円、同9%増。半導体不足やアジアでの新型コロナ感染症再拡大による稼働制限の影響を考慮し、期初計画を据え置いた。第1四半期の結果などからみて、製造業、物流業を中心に経済活動の正常化が進めば収益回復が続こう。日本も、下期は先行投資負担が軽減され、収益回復が期待できる。

### [株価動向・投資判断]

海外を中心とする収益回復が好印象。中長期で、ECの活況が継続、省人化ニーズも強まっており、さらなる収益拡大が期待できよう。

<6287 サトーHD 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
20.3	116,372 ( 0)	7,461 ( ▲ 3)	6,571 ( ▲ 14)	▲ 1,882 ( -)	▲ 56.1	70.00
21.3	109,052 ( ▲ 6)	5,847 ( ▲ 22)	5,521 ( ▲ 16)	12,959 ( -)	385.9	70.00
22.3 予	117,000 ( 7)	6,400 ( 9)	6,200 ( 12)	4,000 ( ▲ 69)	119.1	70.00



[主要株価指標]	(売買単位: 100株)
株価 (2021/8/13)	2,803 円
年初来高値 (高値日)	2,972 円 (21/3/29)
同 安値 (安値日)	2,157 円 (21/1/5)
予想 P E R (22.3 予)	23.5 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	1,748.6 円
P B R	1.60 倍
予想配当利回り	2.50 %
(1株当たり配当金 70.00円)	
R O E (21.3)	24.4 %
発行済み株式数	3,492 万株